

# System 20 PRO

2.4GHzワイヤレスシステム



Japanese

本製品は安全性に充分な配慮をして設計していますが、使いかたを誤ると事故が起こることがあります。事故を未然に防ぐために次の内容を必ずお守りください。

⚠ 危険	この表示は「取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性が切迫していま す」を意味しています。
⚠ 警告	この表示は「取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性があります」を意 味しています。
⚠ 注意	この表示は「取り扱いを誤った場合、使用者が傷害を負う、または物的損害が発生する可能性 があります」を意味しています。

## 本製品について

T

⚠ 警告	・ 心臓ペースメーカーの装着部位から15cm以内の場所では使用しない
	ペースメーカーが、本製品の電波の影響を受ける恐れがあります。
	• 本製品を医療機器の近くで使用しない
	電波が心臓ペースメーカーや医療用電気機器に影響を与える恐れがあります。医療機関の屋内では使用しないでくだ さい。
	• 本製品を航空機内で使用しない
	電波が影響をおよぼし、誤作動による事故の原因となる恐れがあります。
	• 自動ドア、火災報知器などの自動制御機器の近くで使用しない
	電波が影響をおよぼし、誤作動による事故の原因となる恐れがあります。
	• 指定の電池/充電式電池以外使用しない
	故障、不具合の原因になります。
	• 付属のACアダプター以外使用しない
	電流容量などの違いにより、火災・感電の原因になります。また、故障・不具合の原因になります。
	• 異常(音、煙、臭いや発熱、損傷など)に気付いたら使用しない
	異常に気付いたらすぐに使用を中止して、コンセントから抜きお買い上げの販売店に修理を依頼してください。その まま使用すると、火災など事故の原因になります。
	<ul> <li>火気に近付けない/火の付いたキャンドルなどを上に置かない</li> </ul>
	火災の原因になります。
	• 分解や改造はしない
	感電によるけがや、火災など事故の原因になります。
	• 強い衝撃を与えない
	感電によるけがや、火災など事故の原因になります。
	• 濡れた手で触れない
	感電によるけがの恐れがあります。
	• 水をかけない/水滴や水しぶきのかかる場所に置かない
	感電によるけがや、火災など事故の原因になります。
	• 本製品に異物(燃えやすい物、金属、液体など)を入れない
	感電によるけがや、火災など事故の原因になります。
	• じゅうたんや布などで覆わない
	過熱による火災など事故の原因になります。
	• 同梱のポリ袋は幼児の手の届く所や火のそばに置かない
	事故や火災の原因になります。

<b>電源電圧設定を変えない</b> <sub>火災の原因になります。</sub>	
<ul> <li>♪ すぐにコンセントからACアダプターを抜くことができる場所に置く 電源ボタンを切っても、コンセントからは完全に遮断されていません。故障、不具合の原因になります。</li> <li>・ 不安定な場所に置かない 本製品の落下などにより、けがや故障の原因になります。</li> <li>・ 換気の良い場所に置く 本製品を換気の悪い場所に置くと、熱がこもり、火災など事故の原因になります。ラックなどに入れるときは をよくするために本製品の周りに隙間を空けてください。</li> <li>・ 直射日光の当たる場所、暖房器具の近く、高温多湿やほこりの多い場所に置かない 感電によるけがや、火災など事故の原因になります。また、故障、不具合の原因になります。</li> <li>・ 本製品の上に物(花瓶・植木鉢・水の入ったコップ・金属など)を置かない 万一、倒れた場合、感電によるけがや、火災など事故の原因になります。</li> <li>・ ベンジン、シンナー、接点復活剤などは使用しない 変形、故障の原因になります。</li> <li>・ アンテナで目を突いたりしない けがの原因になります。</li> </ul>	、放熱

# ACアダプターについて

▲ 警告	
	<ul> <li>本製品以外には使用しない</li> <li>過熱による火災など事故の原因になります。</li> </ul>
	• 異常(音、煙、臭いや発熱、損傷など)に気付いたら使用しない 異常に気付いたらすぐに使用を中止して、コンセントから抜きお買い上げの販売店に連絡してください。そのまま使 用すると、火災など事故の原因になります。
	<ul> <li>コンセントや本体にプラグを差し込むときは根元まで確実に差し込む</li> <li>過熱による火災など事故の原因になります。</li> </ul>
	<ul> <li>コードを引っ張らず、プラグを持ってまっすぐ抜き差しする</li> <li>断線、故障の原因になります。</li> </ul>
	<ul> <li>コードの上に物を置いたり、敷物や家具などの下に入れたりしない</li> <li>断線、故障の原因になります。</li> </ul>
	• 分解や改造はしない 感電によるけがや、火災など事故の原因になります。
	• 強い衝撃を与えない 感電によるけがや、火災など事故の原因になります。
	<ul> <li>濡れた手で触れない</li> <li>感電によるけがの恐れがあります。</li> </ul>
	布などで覆わない     過熱による火災など事故の原因になります。
	<ul> <li>プラグにたまったほこりなどは乾いた布で定期的に拭き取る</li> <li>過熱による火災など事故の原因になります。</li> </ul>

	<ul> <li>すぐにコンセントからACアダプターを抜くことができるようにする</li> <li>電源を切ってもコンセントからは完全に遮断されていません。万一の事故防止のため、本製品をコンセントの近くに</li> <li>置き、すぐにコンセントからACアダプターを抜くことができるようにしてください。</li> </ul>
⚠ 注意	• 長時間使用しないときは、コンセントから抜く 火災の原因になることがあります。安全のため、必ずコンセントから抜いてください。また、省エネルギーにご配慮 ください。
	• 足に引っ掛かりやすい場所にコードを引き回さない 故障や事故の原因になります。
	<ul> <li>通電中のACアダプターに長時間触れない</li> <li>低温やけどの原因になることがあります。</li> </ul>

## 電池/充電式電池について

- 充電式電池は保護のため、半年に一度は充電を行うようにしてください。放置しすぎると充電式電池の持続時間が短 くなる、充電しなくなるなどの恐れがあります。
- 指定電池/充電式電池以外は使用しないでください。

製品	指定電池/充電式電池
ATW-T1401/ATW-T1402	単3形アルカリ乾電池(2本) 単3形リチウム乾電池(2本) 単3形ニッケル水素電池(2本)
ATW-T1406/ATW-T1407	専用リチウムイオン電池

▲ 危険	• 電池の液が目に入ったときは目をこすらない すぐに水道水などのきれいな水で充分に洗い、医師の診察を受けてください。
	• 電池の液が漏れたときは素手で液を触らない
	液が本製品の内部に残ると故障の原因になります。電池が液漏れを起こした場合は、当社サービスセンターまでご相 談ください。
	万一、なめた場合はすぐに水道水などのきれいな水で充分にうがいをし、医師の診察を受けてください。 皮膚や衣服に付いた場合は、すぐに水で洗い流してください。皮膚に違和感がある場合は医師の診察を受けてくださ い。

⚠ 警告	• 火の中に入れない、加熱、分解、改造しない 液漏れ、発熱、破裂の原因になります。
	• 釘を刺したりハンマーで叩いたり踏み付けたりしない 発熱、破損、発火の原因になります。
	<ul> <li>幼児の手の届く所に置かない</li> <li>電池を飲み込んだ場合は、すぐに医師の診察を受けてください。窒息や内臓への障害の恐れがあります。</li> </ul>
	<ul> <li>電池は(+)(-)を逆に入れない</li> <li>液漏れ、発熱、破裂の原因になります。</li> </ul>
	• 硬貨やカギなど金属製のものと一緒の場所に置いたり、電池の(+)と(-)を接続しない ショート状態になり液漏れ、発熱、破裂の原因になります。
	<ul> <li>新しい電池と一度使用した電池、銘柄や種類の違う電池を混ぜて使用しない</li> <li>液漏れ、発熱、破裂の原因になります。</li> </ul>

	<ul> <li>乾電池は充電しない 液漏れ、発熱、破裂の原因になります。</li> <li>使い切った電池はすぐに取り出す 液漏れ、発熱、破裂の原因になります。</li> <li>長期間使用しない場合は電池を取り出す 液漏れによる故障の原因になります。</li> </ul>
♪注意	<ul> <li>落下させたり強い衝撃を与えない         液漏れ、発熱、破裂の原因になります。     </li> <li>以下の場所で使用、放置、保管しない         直射日光の当たる場所         高温多温の場所             炎天下の車内             ストーブなどの熱源の近く             液漏れ、発熱、破裂、性能低下の原因になります。     </li> <li>水に濡らさない         発熱、破裂、発火の原因になります。     </li> <li>水に濡らさない         奈熱、破裂、発火の原因になります。     </li> <li>指定の充電器以外で充電しない         故障や火災の原因になります。     </li> <li>外装ラベルがはがれた電池は使用しない、ラベルをはがさない         ショート状態になりやすく、液漏れ、発熱、破裂の原因になります。     </li> <li>交形させたりハンダ付けしない         液漏れ、発熱、破裂の原因になります。     </li> <li>保管、廃棄の場合は端子(金属部分)をテープなどで絶縁する         液漏れ、発熱、破裂の原因になります。     </li> <li>機器を使用したあとは必ずスイッチを切る         液漏れの多くは、スイッチの切り忘れによる電池の消耗が原因です。     </li> <li>指定の電池以外使用しない         液漏れ、発熱、破裂の原因になります。     </li> <li>使用済みの電池は自治体の所定の方法で処分する         環境保全に配慮してください。     </li> </ul>

### 充電式電池のリサイクルについて

充電式電池はリサイクルできます。不要になった電池は、端子(金属部分)にテープなどを貼り付けて絶縁してから充 電式電池リサイクル協力店にお持ちください。充電式電池の回収・リサイクルおよびリサイクル協力店については、社 団法人電池工業会ホームページ http://www.baj.or.jp をご覧ください。

# 使用上の注意

## 本システム

- ご使用の際は、接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。
- テレビやラジオのアンテナ付近で使用すると、テレビやラジオにノイズが入る場合があります。その場合は離して使用してください。
- 周囲の電波環境などにより、干渉ノイズが発生することがありますので注意してください。
- 本システムは自動車のスパークノイズ、照明用調光装置、コンピューター、OA機器、電子楽器などの影響を受ける 場合があります。影響を受けにくい位置に設置して使用してください。
- 本システムは必ず当社指定の機器との組み合わせで使用してください。
- 本システムを設置する際、レシーバーユニットとトランスミッターの間にはできるだけ障害物がないように設置してください。ラックマウント時にアンテナが隠れてしまう場合には、レシーバーユニットを外部に設置してください。
- 本製品は長い間使用すると、紫外線(特に直射日光)や摩擦により変色することがあります。
- 本製品を分解して改造を行うことは、法規上禁止されています。また、本製品は精密にできており、分解すると感電 や故障、火災の原因にもなります。絶対に行わないでください。
- 複数台同時に使用する場合は、トランスミッター同士は1m以上、トランスミッターとレシーバーは2m以上離して ください。連結していないレシーバー同士は1m以上離してください。
- 使用時にハウリング(ピー、あるいはキーンと言う音)が発生した場合、接続しているミキサー/アンプなどの出力 ボリュームを絞ってください。

### レシーバー

• 接続するケーブルのプラグは根元まで確実に差し込んでください。

## トランスミッター

- ギターと合わせて使用する際、ピックアップの種類によって磁気のノイズを受けやすいものがあります。ノイズが出る場合には、トランスミッターをギターのピックアップ部から30cm以上離して設置してください。
- トランスミッターの近くに電子機器や発信機(携帯電話など)があるとトランスミッターにノイズが入る場合があり ます。その場合は離して使用してください。
- 充電式電池の消耗を防ぐため、使用しないときや充電器に設置しないときはトランスミッターの電源をOFFにしてく ださい。



汚れたときやほこりが付いたときは、乾いた柔らかい布で拭き取ってください。

- (!)
- お手入れの際は、必ず電源をOFFにしてください。
- トランスミッター・充電器の充電端子は汚れが付着しやすい部分です。汚れが付着したまま使用すると充 電できない場合があります。充電端子が汚れた場合は、力を加えすぎないように注意して綿棒などで汚れ を拭いてください。
- ベンジン、シンナー、接点復活剤などは使用しないでください。変形、破損、故障の原因になります。

# 本システムの対応機器

本システムは次の機器で構成されています。





# トランスミッター (マイクロホン)



#### 1 ATW-T1401

ボディパックトランスミッター

#### 2 ATW-T1402

ハンドヘルドトランスミッター

#### **3** ATW-T1406

バウンダリーマイクロホントランスミッター

#### 4 ATW-T1407

デスクスタンドトランスミッター

### 本システムの対応機器

充電器



ATW-CHG3a/ATW-CHG3Na 2ch充電器

### ATW-R1440

本レシーバーは、レシーバーシャーシ(ATW-RC14)とレシーバーユニット(ATW-RU14)の組み合わせです。





複数のレシーバーを連結して使用する際に付属の連結ケーブルを接続します。

12 DC入力ジャック

付属のACアダプターを接続します。







- 1 アンテナ接続コネクター

付属のアンテナを取り付けます。

#### 2 カメラねじ(1/4インチねじ)

外部設置する際に固定用として使用します。

#### 3 インジケーター

電源がONになると点灯します。また、本レシーバーユニットの状態を表示します。詳しくは、「インジケーターに ついて」(p.74)を確認してください。

④ ラッチモジュール

レシーバーシャーシ内部に収納する際の固定モジュールです。

#### 5 内部接続端子

#### 6 外部接続ポート

外部設置する際にレシーバーシャーシからのLANケーブル(CAT5e以上)を接続します。

# ATW-T1401





2 ミュートスイッチ

ミュート/ミュート解除を切り替えます。



### ATW-T1402





#### 1 ディスプレイ

現在の状態を表示します。

30秒間何もボタン操作をしないと、ディスプレイが消灯します。ディスプレイが消灯した場合、電源ボタンを押す と表示されます。

#### 2 インジケーター

電源がONになると点灯します。また、本トランスミッターの状態を表示します。詳しくは、「インジケーターについて」(p.74)を確認してください。

 3 ミュートスイッチ ミュート/ミュート解除を切り替えます。
 4 グリップケース
 5 電源ボタン 電源のON/OFFやペアリングを行います。
 6 充電端子
 7 USBポート (USB Type-C) ファームウェアを更新する際に使用します。

## ATW-T1406



● USBポート (USB Type-C)

充電やファームウェアを更新する際に使用します。

#### 2 ステータスインジケーター

電源がONになると点灯します。また、本トランスミッターの状態を表示します。詳しくは、「インジケーターについて」(p.74)を確認してください。

3 マイクロホン

4 トークスイッチ

ミュート/ミュート解除を切り替えます。

5 トークインジケーター

ミュート/ミュート解除の状態を表示します。詳しくは、「インジケーターについて」(p.74)を確認してください。

#### 6 ディスプレイ

現在の状態を表示します。 30秒間何もボタン操作をしないと、ディスプレイが消灯します。ディスプレイが消灯した場合、電源ボタンを押す と表示されます。

#### 1 電源ボタン

電源のON/OFFやペアリングを行います。

### ATW-T1407



● USBポート (USB Type-C)

充電やファームウェアを更新する際に使用します。

2 ステータスインジケーター

電源がONになると点灯します。また、本トランスミッターの状態を表示します。詳しくは、「インジケーターについて」(p.74)を確認してください。

#### 3 入力コネクター

グースネックマイクロホンを接続します。

#### 4 トークスイッチ

ミュート/ミュート解除を切り替えます。

#### **5** トークインジケーター

ミュート/ミュート解除の状態を表示します。詳しくは、「インジケーターについて」(p.74)を確認してください。

#### 6 ディスプレイ

現在の状態を表示します。 30秒間何もボタン操作をしないと、ディスプレイが消灯します。ディスプレイが消灯した場合、電源ボタンを押す と表示されます。

#### **7** 電源ボタン

電源のON/OFFやペアリングを行います。

# レシーバーの設置のしかた

レシーバーのアンテナとトランスミッターの間に障害物があると、電波が充分届かない場合があります。レシーバー は、見通しの良い場所に設置してください。

## アンテナの取り付けかた

付属のアンテナを取り付けないと電波をうまく受信できません。

- 1 アンテナを取り付け、ねじ部分を締め込みます。
  - 最後までしっかりと締めてください。



- 2 アンテナを立てます。
  - クリック感がある位置が目安です。
  - 真ん中の2本は1回目、左端と右端は2回目のクリック感を目安に立ててください。



- **3** アンテナを左右に傾けます。
  - イラストを参考に左右に30度程度傾けてください。

### レシーバーの設置のしかた



## ラックマウントのしかた

付属のラックマウントアダプターと固定用ねじを使用して、市販のラックに取り付けることができます。

- ラックへの取り付けねじは付属していません。
- 必要なラックの仕様は次のとおりです。
  - EIA規格の19インチラック
  - 1Uサイズの取り付け可能なラック
  - レシーバーを置く棚のあるラックまたはレシーバーを支えるガイドレール付きのラック



- ・ ラックマウントの際はラックの内部に熱がこもらないよう、換気に配慮してください。
  - 本製品をラックに設置するときは、ラック内の温度が45℃以上にならないようにしてください。高温状態 は本製品の内部部品に悪影響を及ぼし、本製品が誤動作する原因となります。
  - 換気のため、本製品の背面には物を置かないでください。

#### レシーバーを上下に配置してラックマウントする場合

上下のレシーバーのアンテナが接触しないようにしてください。接触する場合は、アンテナの角度を調整してください。



レシーバー1台をラックマウントする

1 側面にラックマウントアダプター(短)とラックマウントアダプター(長)を取り付けます。

- 左右のどちら側でも取り付けできます。
- 固定用ねじは左右各2本ずつ、すべてしっかりと取り付けてください。



- 固定用ねじ
- 2 ラックマウントアダプター(短)
- ラックマウントアダプター(長)

レシーバー2台をラックマウントする

1 底面にラックマウントアダプター(長)を2つ取り付けて、レシーバーを連結します。

• 固定用ねじは左右各3本ずつ、すべてしっかりと取り付けてください。



```
    固定用ねじ
    ラックマウントアダプター(長)
```

- 2 側面にラックマウントアダプター(短)を2つ取り付けます。
  - 固定用ねじは左右各2本ずつ、すべてしっかりと取り付けてください。





2 ラックマウントアダプター(短)

## ゴム脚の取り付けかた

机などに設置する場合、レシーバーの底面に付属のゴム脚を貼り付けてください。

• ラックマウントする場合は、ゴム脚は貼り付けないでください。



# レシーバーユニットの外部設置のしかた

レシーバーシャーシからレシーバーユニットを取り出して設置できます。

# レシーバーユニットの取り出しかた

1 「PUSH」部分を押して、レシーバーユニットを取り出します。



## ユニットホルダーを使用した取り付けかた

- アンテナは真っ直ぐにした状態にしてください。
- ユニットホルダーを壁などに取り付ける木ねじは付属していません。

### ユニットホルダーを固定する場合

1 ユニットホルダーを木ねじで壁などに取り付けます。



### レシーバーユニットの外部設置のしかた

ユニットホルダーを取り付け/取り外しできるようにする場合

1 木ねじを壁などに半締めし、ユニットホルダーを引っ掛けます。

• ユニットホルダーは上下どちらの向きでも取り付けできます。



レシーバーユニットの取り付けかた

1 レシーバーシャーシのレシーバーユニット外部接続ポートと、レシーバーユニットの外部接続ポートをLANケー ブル(CAT5e以上)で接続します。



**2** レシーバーユニットをユニットホルダーに取り付けます。



- 3 壁からLANケーブルを通す場合、ホルダーカバーを取り付けます。
  - LANケーブルや配線穴を隠すことができます。



矢印部分を押しながら、取り外します。



レシーバーユニットの取り外しかた

1 ツメを押しながら、レシーバーユニットを下から押して取り外してください。



ユニットホルダーの連結のしかた

溝と突起を合わせることでレシーバーユニットを連結することができます。



# カメラねじを使用した取り付けかた

カメラねじのアングルを使用する場合、レシーバーユニットのカメラねじ(1/4インチねじ)にアングルを取り付けて ください。





# 本システムを使用するまでの基本的な流れ

ここでは、すぐにお使いになるための基本的な操作を説明しています。詳細な操作や設定方法については、それぞれの 説明ページを確認してください。

- 1 レシーバーなどの機器を設置・配線します。
- **2** トランスミッターとレシーバーをペアリングします。
  - トランスミッターとレシーバーのセット品はペアリング済みです。
- 3 トランスミッターに音声を入力します。
- **4** 接続したスピーカーなどから音声が出力されることを確認します。

# ATW-R1440(1台のみ使用時)

使用できるトランスミッターの数は、レシーバーの受信モードが「Standard」で最大2台、「HD mode」で最大4台で す。



## ATW-R1440 (複数台使用時)

- 使用できるレシーバーの数は最大5台です。
- レシーバーを5台使用した場合、使用できるトランスミッターの数は、レシーバーの受信モードが「Standard」で 最大10台、「HD mode」で最大20台です。



# レシーバーの接続のしかた

基本接続

レシーバーを1台で使用する場合の接続例です。



- LANケーブル
- XLRケーブル
- 3 ACアダプター

## 連結について(RXリンク)

レシーバーを複数台使用する場合、付属の連結ケーブルで連結(RXリンク)してください。

- RXリンクすると、ワイヤレスマネージャーをインストールしたパソコン1台で、接続しているすべてのレシーバー とトランスミッターの設定・監視が可能になります。
- 通信の信頼性が向上し、音切れしにくくなります。
- 2.4GHzの周波数帯を使用するほかの機器に与える電波干渉が低減します。
- 最大5台を接続して使用できます。
- RXリンクすると、子機の受信モードは親機の設定に変更されます。変更された場合、ペアリング情報は削除されます。
- RXリンクせずにレシーバーを複数台使用する場合は、レシーバー同士の距離を1m以上離して使用してください。
  - 1 接続するすべてのレシーバーの電源をOFFにします。
  - 2 親機とするレシーバーのLINK OUTポートと、子機のLINK INポートを連結ケーブルで接続します。
  - 3 2台目以降も同様にLINK OUTポートとLINK INポートを連結ケーブルで接続します。
    - 接続が確立すると、ディスプレイのリンクステータス部分にマークが表示されます。



#### 1 親機

2 LANケーブル

- 3 XLRケーブル
- 4 連結ケーブル
- 5 ACアダプター

6 子機

# 充電のしかた

# ATW-T1401/ATW-T1402を充電する

別売の充電器(ATW-CHG3a/ATW-CHG3Na)を使用して充電します。

- 充電器の詳細な説明は、充電器の取扱説明書を確認してください。
- ニッケル水素電池をトランスミッターに入れて充電してください。
- アルカリ乾電池、リチウム乾電池は充電しないでください。
- ATW-CHG3/ATW-CHG3Nを使用した充電も可能です。
  - 1 充電器にACアダプターを接続して、電源をONにします。
  - 2 充電するトランスミッターを充電器の充電ポートに差し込みます。
    - 充電器1台で最大2台までのトランスミッターを同時に充電できます。
    - トランスミッターの向きを確認して充電器に差し込んでください。向きが合っていないと充電できません。
    - トランスミッターの充電が開始されると、充電器のステータスインジケーターが赤色に点灯します。



- 充電中、トランスミッターの電源はOFFになります。
  - トランスミッターの電源がONの状態で充電した場合、60分未満で充電器から取り出すとトランスミッターの電源が自動的にONになります。
  - トランスミッターの電源がONの状態で充電した場合、60分以上で充電器から取り出すとトランスミッターの電源はOFFになります。
  - 充電式電池は充電を繰り返すと、電池の容量が減少してきます。使用時間が短くなってきたら、なるべく 早く新しい電池と交換してください。

### 充電のしかた

## ATW-T1406/ATW-T1407を充電する

- 1 トランスミッターのUSBポート(USB Type-C)に付属のUSBケーブル・USB電源アダプターを接続します。
  - USBケーブルをUSBポートに差し込む際は、まっすぐ(水平に)差し込んでください。
  - 充電が開始されると、ステータスインジケーターが赤色に点灯します。
  - パソコンのUSBポートに接続して充電することもできます。



 本製品の内蔵充電式電池は取り外すことができません。本製品を充分に充電しても使用時間が短くなった 場合は、内蔵充電式電池の寿命が考えられます。その際は当社サービスセンターへご連絡ください。

# 機器の使いかた

## ATW-R1440

### 電源をON/OFFする

- 1 ACアダプターを接続し、電源プラグをコンセントに接続します。
- 2 電源がOFFの状態で電源ボタンを長押し(約2秒)します。



» 電源がONになりディスプレイが点灯します。

- **3** 電源がONの状態で電源ボタンを長押し(約2秒)します。
  - » 電源がOFFになります。
- 電源をONにした後、操作できるようになるまで、しばらく時間(約30秒)がかかります。
  - 電源がONのままコンセントからの電源供給が切れた場合、電源供給が開始されると自動的に電源がONになります。

## ATW-T1401

### 電池の入れかた

1 電池カバーのノブをスライドさせます。



2 ノブをスライドさせた状態で、電池カバーを開きます。



**3** 本体に表示されている(+)と(-)の向きを確認して、正しく電池を入れます。


### 電源をON/OFFする

1 電源がOFFの状態で電源ボタンを長押し(約2秒)します。



1 電源ボタン

» 電源がONになり、インジケーターが点灯します。

インジケーター	状態
緑色点灯	通信が確立しています。
赤色点滅	通信するレシーバーを探しています。

#### 2 電源がONの状態で電源ボタンを長押し(約2秒)します。

» 電源がOFFになります。

## ミュート/ミュート解除を切り替える

「チャンネル設定」の「ミュートモードの設定(ATW-T1401/ATW-T1402)」(p.66)で設定を変更できます。

- 1 ミュートスイッチをスライドします。
  - ミュートスイッチを右方向にスライドするとミュート、左方向にスライドするとミュート解除になります。
  - インジケーターの表示が切り替わります。



1 ミュートスイッチ

2 インジケーター

インジケーター	状態
赤色点灯	₹ト
緑色点灯	ミュート解除

### 外部機器の取り付けかた

cWコネクター対応の外部マイクロホンやギターケーブルなどを取り付けます。

#### 1 入力コネクターに外部マイクロホンなどを接続します。



 $\square$ 

• 外部機器の取り扱いについては、外部機器の取扱説明書を確認してください。

• 対応している外部マイクロホンについては、プロオーディオ営業部プロフェッショナルSS課までお問い合わせください。

## 装着のしかた

ベルトクリップをベルトなどに取り付けて使用することができます。



ATW-T1402

電池の入れかた

1 本体のグリップケースを回転させて取り外します。



2 電池カバーを開きます。



**3** 本体に表示されている(+)と(-)の向きを確認して、正しく電池を入れます。

### 機器の使いかた



### 電源をON/OFFする

1 電源がOFFの状態で電源ボタンを長押し(約2秒)します。



1 電源ボタン

2 インジケーター

» 電源がONになり、インジケーターが点灯します。

インジケーター	状態
緑色点灯	通信が確立しています。
	通信するレシーバーを探しています。

#### 2 電源がONの状態で電源ボタンを長押し(約2秒)します。

» 電源がOFFになります。

## ミュート/ミュート解除を切り替える

「チャンネル設定」の「ミュートモードの設定(ATW-T1401/ATW-T1402)」(p.66)で設定を変更できます。

- 1 ミュートスイッチをスライドします。
  - ミュートスイッチを下方向にスライドするとミュート、上方向にスライドするとミュート解除になります。
  - インジケーターの表示が切り替わります。



2 ミュートスイッチ

インジケーター	状態
赤色点灯	ミュート
	ミュート解除

# ATW-T1406/ATW-T1407

## 電源をON/OFFする

「チャンネル設定」の「インジケーターの設定(ATW-T1406/ATW-T1407)」(p.67)で設定を変更できます。

1 電源がOFFの状態で電源ボタンを長押し(約2秒)します。



1 電源ボタン

2 インジケーター

» 電源がONになり、インジケーターが点灯します。

インジケーター	状態
禄色点灯	通信が確立しています。
赤色点滅	通信するレシーバーを探しています。
赤色点灯	通信が確立しています。(Conferenceモード時)

2 電源がONの状態で電源ボタンを長押し(約2秒)します。

» 電源がOFFになります。

ミュート/ミュート解除を切り替える

• 「チャンネル設定」の「ミュートモードの設定(ATW-T1406/ATW-T1407)」(p.66)で設定を変更できます。

• 「チャンネル設定」の「インジケーターの設定(ATW-T1406/ATW-T1407)」(p.67)で設定を変更できます。

1 トークスイッチを押します。

- ミュート/ミュート解除の切り替わりかたは、設定されたミュートモードをご確認ください。
- トークインジケーターとステータスインジケーターの表示が切り替わります。



トークスイッチ
 トークインジケーター
 ステータスインジケーター

トークインジケーター/ステータスイ ンジケーター	状態
赤色点灯	ミュート
緑色点灯	ミュート解除
消灯	ミュート (Conferenceモード時)
赤色点灯	ミュート解除(Conferenceモード時)

### グースネックマイクロホンの取り付けかた(ATW-T1407のみ)

グースネックマイクロホンをデスクスタンドトランスミッターに取り付けて使用します。

#### グースネックマイクロホンをデスクスタンドトランスミッターに差し込みます。

- 差し込む際はトランスミッターの電源をOFFにしてください。
- 「カチッ」と音が出るまで差し込みます。



- グースネックマイクロホンの取り扱いについては、グースネックマイクロホンの取扱説明書を確認してく ださい。
  - 対応しているグースネックマイクロホンについては、プロオーディオ営業部プロフェッショナルSS課まで お問い合わせください。

LED付きグースネックマイクロホンを使用する場合(ATW-T1407のみ)

LED付きグースネックマイクロホンを使用する際は、「インジケーターの設定(ATW-T1406/ATW-T1407)」 (p.67)を行ってください。



LED
 LED付きグースネックマイクロホン

グースネックマイクロホンの取り外しかた(ATW-T1407のみ)

1 デスクスタンドトランスミッターの「PUSH」と表示された部分を押し込みながら取り外します。

• 取り外す際はトランスミッターの電源をOFFにしてください。



# ペアリングのしかた

この取扱説明書ではレシーバーとトランスミッターがお互いに登録されることを「ペアリング」と記載しています。

- **1** レシーバーをペアリングモードにします。
  - 詳しくは、「ペアリングモード」(p.62)を確認してください。

» レシーバーのディスプレイに「Pairing」と表示されます。

- **2** トランスミッターの電源がOFFの状態で電源ボタンを長押し(約5秒)します。
- 3 トランスミッターのインジケーターが緑色と赤色で交互に点滅したら指を離します。 »トランスミッターのディスプレイに「Pairing」と表示されます。
- **4** ペアリングが完了すると、レシーバーのディスプレイに完了画面が表示されます。

»トランスミッターのインジケーターが点滅から点灯に切り替わります。

トランスミッターのファームウェアが古い場合、アップデートを促す表示がレシーバーに表示されます。
 表示された場合は、「ファームウェアアップデートのしかた」(p.76)を参照しアップデートしてください。

# ディスプレイの見かた

# ATW-R1440

メイン画面



### ディスプレイの見かた



レシーバー設定画面

メイン画面でコントロールダイヤルを押すと、レシーバー設定メニューが表示されます。





### ディスプレイの見かた

### チャンネル設定画面

メイン画面でCH MENUボタンを押すと、チャンネル設定メニューが表示されます。

- CH MENUボタンを押すたびに、設定するチャンネルが切り替わります。
- 受信モードが「Standard」の場合は2ch、「HD mode」の場合は4chまで設定できます。



- 1 チャンネル
- 2 LINE/MIC状態
- 3 出力レベル
- 4 メニューバー
- 5 トランスミッターID
- 6 AFステータス
- HPF状態
  - …\_\_\_\_\_ : HPFがONの状態です。
  - OFF

:HPFがOFFの状態です。

# ATW-T1401/ATW-T1402/ATW-T1406/ATW-T1407

現在の状態を表示します。

- 30秒間何もボタン操作をしないと、ディスプレイが消灯します。
- ディスプレイが消灯した場合、電源ボタンを押すと表示されます。



# ディスプレイメッセージ (ATW-R1440)

メッセージ	説明
No receiver unit	レシーバーにレシーバーユニットが接続されていません。
Initializing	レシーバーユニットをレシーバーに接続しています。
Exceeding Rx link limit	連結できるレシーバーの数を超えています。レシーバーの 連結は5台までです。
Rebooting	レシーバーを再起動しています。
RU14 firmware is not matched Update it now ?	接続したレシーバーユニットのファームウェアがレシー バーと異なります。「Yes」を選択するとアップデートが開 始されます。
A firmware update is available for Tx in A1. Pls update with Wireless Manager App via USB. <sup>[1][2]</sup>	通信したトランスミッターのファームウェアが古いです。 アップデートする場合は、専用アプリケーション(ワイヤ レスマネージャー)を使用してください。
Firmware updating…	レシーバーのファームウェアを更新しています。

[1] トランスミッターIDがA1の場合。

[2] ボタン操作をすることでメイン画面に戻ります。

ディスプレイに表示される画面から各種設定ができます。

## レシーバー設定

基本的な操作

1 コントロールダイヤルを押します。



1 コントロールダイヤル

» レシーバー設定メニューが表示されます。

- 2 コントロールダイヤルを回してレシーバー設定メニューや設定を選択します。
- **3** コントロールダイヤルを押して決定します。
- 4 BACKボタンを押すと、1つ前の画面に戻ります。
  - 設定途中の場合はキャンセルされます。
  - 長押し(約2秒)すると、メイン画面に戻ります。



BACKボタン

 $\square$ 

• 設定画面で操作を約30秒行わないと、メイン画面に戻ります。

## レシーバー設定メニュー一覧

レシーバー設定	メニュー	内容
DEVICE ID		デバイスIDを設定します。
NAME		名称を設定します。
RF MODE		受信モードを設定します。
	AUTO LOCK	設定を変えることができないように設定します。
	OUTPUT MIX	音声をミックスして出力するかを設定します。
	AF METER	メイン画面のレベルメーターを、レシーバーかトランスミッターの メーターに切り替えます。
	MULTITX	レシーバー1chごとにトランスミッター4台まで登録できます。
UTILITIES	CTRL DIAL	コントロールダイヤルの回転方向を変更します。
	PRESET	設定を保存します。また保存した設定を読み込みます。
	RESET	工場出荷時の状態にします。
	VERSION	バージョンを表示します。
	WEB MANUAL	マニュアルのQRコードを表示します。
	IP SETTING <sup>[1]</sup>	IPを設定します。
NETWORK	REMOTE CTRL <sup>[1]</sup>	リモートコントロールに関する設定をします。
	SYSLOG <sup>[1]</sup>	ログメッセージをSyslogサーバーに転送するかを設定します。
	DISCOVERY <sup>[1]</sup>	アプリケーションからの自動検出の設定をします。
	NTP <sup>[1]</sup>	NTP(ネットワークタイムプロトコル)の設定をします。
	MAC ADDRESS	MACアドレスを表示します。

[1] RXリンク時、子機のレシーバーは設定できません。

### デバイスIDを設定する

- レシーバー設定メニューから「DEVICE ID」を選び、コントロールダイヤルを押します。
- コントロールダイヤルを回して数字を選び、コントロールダイヤルを押します。
  - 0~999まで設定できます。

»設定が完了します。

### 名称を設定する

レシーバーの名称を設定します。設定できる文字は以下のとおりです。

- 英字(大文字)、数字、記号(\_、+、-、#、&、ピリオド)、スペース
- 入力可能文字数は8文字です。

- 1 レシーバー設定メニューから「NAME」を選び、コントロールダイヤルを押します。
- フ コントロールダイヤルを回して設定したい文字を選び、コントロールダイヤルを押します。
  - 文字が入力され、カーソルが移動します。
- 3 手順2と同じ操作を行い、すべての文字を入力します。
- **4** 「End」を選び、コントロールダイヤルを押します。

>> 設定が完了します。

#### 受信モードを設定する

- 初期状態は「Standard」に設定されています。
- 「Standard」は低遅延なモードです。
- 「HD mode」では、音声の伝送レートを下げて電波の占有帯域幅を狭くすることで「Standard」選択時よりも多 チャンネルでの同時運用が可能です。
- 「Standard」は2ch、「HD mode」は4ch受信できます。
- 受信モードを変更するとペアリング情報は削除されます。
- RXリンク時に親機の設定を変更すると、子機の設定は親機と同じ設定に変更されます。
- RXリンク時、子機の設定はできません。現在のモードが表示されます。
  - 1 レシーバー設定メニューから「RF MODE」を選び、コントロールダイヤルを押します。
  - 2 コントロールダイヤルを回して「Standard」/「HD mode」を選び、コントロールダイヤルを押します。
  - **3**「OK」を選び、コントロールダイヤルを押します。
    - >> 設定が完了します。

#### ロックの設定

レシーバーの設定を変えることができないように設定します。

- 初期状態は「Off」に設定されています。
- 「On」に設定すると操作ができなくなります。設定を変更する場合は、ロックの解除を行ってください。

1 レシーバー設定メニューから「UTILITIES」を選び、コントロールダイヤルを押します。

- **2** コントロールダイヤルを回して「AUTO LOCK」を選び、コントロールダイヤルを押します。
- **3** 「On」/「Off」を選び、コントロールダイヤルを押します。

>> 設定が完了します。

#### ロックの解除

ロックした後に操作する場合、ロックの解除をしてください。

- ロックの解除後、操作を約10秒行わないと再度ロックされます。
  - 1 ロックされている状態でコントロールダイヤルを長押し(約2秒)します。
  - 2 コントロールダイヤルを回して「Yes」を選び、コントロールダイヤルを押します。

» ロックが解除されます。

### ミックス出力の設定

ミックスした音声をAFバランス出力コネクターの4/MIXから出力させることができます。

- 初期状態は「Discrete」に設定されています。CH4に接続されているトランスミッターの音声が出力されます。
- 設定を「Mix」にすると、CH1からCH4に接続されているトランミッターの音声をミックスした音声を出力します。
- 専用アプリケーション(ワイヤレスマネージャー)を使用することで、より詳細な設定をすることが可能です。
  - 1 レシーバー設定メニューから「UTILITIES」を選び、コントロールダイヤルを押します。
  - **2** コントロールダイヤルを回して「OUTPUT MIX」を選び、コントロールダイヤルを押します。
  - 3 コントロールダイヤルを回して「Discrete」/「Mix」を選び、コントロールダイヤルを押します。
  - 4 「Mix」を選んだ場合、コントロールダイヤルを回して「Line」/「Mic」を選び、コントロールダイヤルを押します。

» 設定が完了します。

### レベルメーター表示の設定

メイン画面のAFステータスを「Pre (受信した音声信号レベル) 」か「Post (レシーバーの出力レベル)」のメーターに切 り替えます。

- 初期状態は「Pre」に設定されています。
- 設定を変更すると、AFステータス部分のマークが変わります。
  - 1 レシーバー設定メニューから「UTILITIES」を選び、コントロールダイヤルを押します。
  - 2 コントロールダイヤルを回して「AF METER」を選び、コントロールダイヤルを押します。
  - 3 コントロールダイヤルを回して「Pre」/「Post」を選び、コントロールダイヤルを押します。

>> 設定が完了します。

#### マルチペアリングの設定

1つのチャンネルに複数のトランスミッターをペアリングできます。トランスミッターの電池残量がなくなった場合や トランスミッターの種類を変更したい場合などに、すぐにトランスミッターを切り替えることができます。

- 初期状態は「Off」に設定されています。
- 設定を「On」にすると、1チャンネルごとにトランスミッターが4台までペアリングできます。
  - 1 レシーバー設定メニューから「UTILITIES」を選び、コントロールダイヤルを押します。
  - 2 コントロールダイヤルを回して「MULTI TX」を選び、コントロールダイヤルを押します。
  - 3 コントロールダイヤルを回して「On」/「Off」を選び、コントロールダイヤルを押します。
     >> 設定が完了します。

#### コントロールダイヤルの設定

コントロールダイヤルを回した際の動作を逆方向に変更できます。

• 初期状態は「Default」に設定されています。

- ┃ レシーバー設定メニューから「UTILITIES」を選び、コントロールダイヤルを押します。
- 2 コントロールダイヤルを回して「CTRL DIAL」を選び、コントロールダイヤルを押します。
- 3 コントロールダイヤルを回して「Default」/「Invert」を選び、コントロールダイヤルを押します。
   >> 設定が完了します。

#### プリセットの保存

レシーバーの設定を保存できます。

- 1 レシーバー設定メニューから「UTILITIES」を選び、コントロールダイヤルを押します。
- **2** コントロールダイヤルを回して「PRESET」を選び、コントロールダイヤルを押します。
- 3 コントロールダイヤルを回して「Save as preset」を選び、コントロールダイヤルを押します。
- 4 コントロールダイヤルを回して「Yes」を選び、コントロールダイヤルを押します。
   ※ 設定を保存します。

#### プリセットの読み込み

「プリセットの保存」で保存した設定を読み込みます。

- 1 レシーバー設定メニューから「UTILITIES」を選び、コントロールダイヤルを押します。
- **2** コントロールダイヤルを回して「PRESET」を選び、コントロールダイヤルを押します。
- **3** コントロールダイヤルを回して「Recall preset」を選びます。
- **4** コントロールダイヤルを回して「Yes」を選び、コントロールダイヤルを押します。
- 5 コントロールダイヤルを回して「Yes」を選び、コントロールダイヤルを押します。
   ※ 設定を読み込みます。

#### 初期化

レシーバーの設定を工場出荷時の状態にします。

- 1 レシーバー設定メニューから「UTILITIES」を選び、コントロールダイヤルを押します。
- 2 コントロールダイヤルを回して「RESET」を選び、コントロールダイヤルを押します。
- **3** コントロールダイヤルを回して「Yes」を選び、コントロールダイヤルを押します。
- 4 コントロールダイヤルを回して「Yes」を選び、コントロールダイヤルを押します。
   ※ 設定を初期化します。

### バージョンの確認

レシーバーのファームウェアバージョンを表示します。

- ┃ レシーバー設定メニューから「UTILITIES」を選び、コントロールダイヤルを押します。
- 2 コントロールダイヤルを回して「VERSION」を選び、コントロールダイヤルを押します。
   » ファームウェアのバージョンが表示されます。

### マニュアル

マニュアルのQRコードを表示します。

- 1 レシーバー設定メニューから「UTILITIES」を選び、コントロールダイヤルを押します。
- 2 コントロールダイヤルを回して「WEB MANUAL」を選び、コントロールダイヤルを押します。» QRコードが表示されます。

IPの 設定

2

#### 3 設定したい項目を選択し、コントロールダイヤルを押します。 項目 内容 IPアドレスの取得方法について設定します。 「Auto」: IP アドレスを自動で割り当てるように設定します。 IP Mode 「Static」:固定IPアドレスを使用するように設定します。 IP Address<sup>[1]</sup> 固定IPアドレスを指定します。 Subnet Mask<sup>[1]</sup> サブネットマスクを設定します。 Gateway<sup>[1]</sup> ゲートウェイを設定します。 Port Number ポート番号を表示します。

レシーバー設定メニューから「NETWORK」を選び、コントロールダイヤルを押します。

コントロールダイヤルを回して「IP SETTING」を選び、コントロールダイヤルを押します。

[1] 「IP Mode」を「Static」に設定しているときのみ、設定できます。

#### 4 各項目を設定します。

**5** 「Apply」を選び、コントロールダイヤルを押します。

- **6** コントロールダイヤルを回して「Reboot」/「Later」を選び、コントロールダイヤルを押します。
  - 「Reboot」を押した場合、レシーバーが再起動し設定が完了します。
  - 「Later」を押した場合、設定は完了しますが、レシーバーを再起動するまで設定が反映されません。

リモートコントロールに関する設定

- 1 レシーバー設定メニューから「NETWORK」を選び、コントロールダイヤルを押します。
- 2 コントロールダイヤルを回して「REMOTE CTRL」を選び、コントロールダイヤルを押します。
- 3 設定したい項目を選択し、コントロールダイヤルを押します。

項目	内容
Notification	リモートコントロール時に受信機からの通知を受け取る設定をし ます。
LVL Notify <sup>[1]</sup>	リモートコントロール時に、レシーバーからの通知にAF・RFレベ ルを含めるかどうかを設定します。
Multicast IP <sup>[1]</sup>	マルチキャストのアドレスを設定します。
Multicast port <sup>[1]</sup>	マルチキャストのポート番号を設定します。

[1] 「Notification」を「ON」に設定しているときのみ、設定できます。

#### 4 各項目を設定します。

**5** 「Apply」を選び、コントロールダイヤルを押します。

» 設定が完了します。

### ログメッセージの設定

ログメッセージをSyslogサーバーに転送するかを設定します。

- 初期状態は「Off」に設定されています。
  - 1 レシーバー設定メニューから「NETWORK」を選び、コントロールダイヤルを押します。
  - 2 コントロールダイヤルを回して「SYSLOG」を選び、コントロールダイヤルを押します。
  - 3 コントロールダイヤルを回して「On」/「Off」を選び、コントロールダイヤルを押します。
     ※ 設定が完了します。
- Syslogとは、IPネットワーク上でログメッセージを転送するための標準規格です。コンピューターシステムの管理やセキュリティ監視を目的として使用されています。

### アプリケーションからの自動検出の設定

- 初期状態は「On」に設定されています。
  - 1 レシーバー設定メニューから「NETWORK」を選び、コントロールダイヤルを押します。
  - **2** コントロールダイヤルを回して「DISCOVERY」を選び、コントロールダイヤルを押します。

3 コントロールダイヤルを回して「On」/「Off」を選び、コントロールダイヤルを押します。

**4** コントロールダイヤルを回して「Reboot」/「Later」を選び、コントロールダイヤルを押します。

- 「Reboot」を押した場合、レシーバーが再起動し設定が完了します。
- 「Later」を押した場合、設定は完了しますが、レシーバーを再起動するまで設定が反映されません。

NTP(ネットワークタイムプロトコル)の設定

NTPの設定をします。

1 レシーバー設定メニューから「NETWORK」を選び、コントロールダイヤルを押します。

2 コントロールダイヤルを回して「NTP」を選び、コントロールダイヤルを押します。

3 設定したい項目を選択し、コントロールダイヤルを押します。

項目	内容
NTP	NTPの設定を有効にするかを設定します。
Server Adrs <sup>[1]</sup>	NTPのサーバーアドレスを設定します。
Port Number <sup>[1]</sup>	NTPのポート番号を設定します。
Time Zone <sup>[1]</sup>	UTC(協定世界時)との時差を設定します。
DST <sup>[1]</sup>	サマータイムの入/切を設定します。
Start Date <sup>[2]</sup>	サマータイム開始の月日を設定します。
Start Time <sup>[2]</sup>	サマータイム開始の時刻を設定します。
End Date <sup>[2]</sup>	サマータイム終了の月日を設定します。
End Time <sup>[2]</sup>	サマータイム終了の時刻を設定します。

[1] 「NTP」を「On」に設定しているときのみ、設定できます。

[2]「DST」を「On」に設定しているときのみ、設定できます。

#### 4 各項目を設定します。

#### **5** 「Apply」を選び、コントロールダイヤルを押します。

>> 設定が完了します。

### MACアドレスの確認

- レシーバー設定メニューから「NETWORK」を選び、コントロールダイヤルを押します。
- 2 コントロールダイヤルを回して「MAC ADDRESS」を選び、コントロールダイヤルを押します。» MACアドレスが表示されます。

# チャンネル設定

基本的な操作

- 1 CH MENUボタンを押します。
  - CH MENUボタンを押すたびに、設定するチャンネルが切り替わります。



1 CH MENUボタン

»チャンネル設定メニューが表示されます。

2

コントロールダイヤルを回してチャンネル設定メニューや設定を選択します。



1 コントロールダイヤル

- **3** コントロールダイヤルを押して決定します。
- 4 BACKボタンを押すと、1つ前の画面に戻ります。
  - 設定途中の場合はキャンセルされます。
  - 長押し(約2秒)すると、メイン画面に戻ります。



1 BACKボタン

 $\square$ 

• 設定画面で操作を約30秒行わないと、メイン画面に戻ります。

## チャンネル設定メニュー一覧

チャンネル設定	ミメニュー	内容
PAIR		トランスミッターとペアリングします。
LINE/MIC		LINE/MICのレベルを設定します。
LEVEL		出力レベルを設定します。
HPF		HPF(High-Pass Filter)を設定します。
	TX ID	トランスミッターIDを設定します。
	GAIN	トランスミッターの入力ゲインを設定します。
	INPUT <sup>[2]</sup>	入力コネクターの接続先を設定します。
	MUTE MODE	ミュートモードを設定します。
	LED	インジケーター表示を設定します。
r.1	BATTERY <sup>[3]</sup>	使用する電池の種類を設定します。
	TIMEOUT	タイムアウトする時間を設定します。
	VERSION	トランスミッターのバージョンを表示します。
	RESET	トランスミッターを工場出荷時の状態にします。
UTILITIES	EQ	イコライザーを設定します。
	COMPRESSOR	コンプレッサーを設定します。
	MULTI TX ID <sup>[4]</sup>	トランスミッターの登録を削除します。
IDENTIFY <sup>[1]</sup>		通信している機器のインジケーターが点滅します。

[1] トランスミッターと通信が確立している状態で、トランスミッターの電源がONの場合に設定できます。

[2] ATW-T1401のみ設定できます。

[3] ATW-T1401/ATW-T1402のみ設定できます。

[4] マルチペアリングの設定が「On」の場合に設定できます。

# ペアリングモード

CH MENUボタンを押して、設定するチャンネルを選択します。



• 押すたびに設定するチャンネルが切り替わります。

1 チャンネル

- **2** コントロールダイヤルを回して「PAIR」を選び、コントロールダイヤルを押します。
- 3 コントロールダイヤルを回してトランスミッターIDに設定する文字を選び、コントロールダイヤルを押します。



- トランスミッターID
- **4** コントロールダイヤルを回して「Pair」を選び、コントロールダイヤルを押します。

>> レシーバーのディスプレイに「Pairing」と表示され、トランスミッターとペアリングが開始されます。

- ペアリングが成功すると「Pairing succeeded」と表示されます。
  - タイムアウトした場合は「Timeout」、キャンセルした場合は「Canceled」、失敗した場合は「Failed」 と表示されます。

### LINE/MICレベルの設定

- CH MENUボタンを押して、設定するチャンネルを選択します。
  - 押すたびに設定するチャンネルが切り替わります。
- **2** コントロールダイヤルを回して「LINE/MIC」を選び、コントロールダイヤルを押します。
- 3 コントロールダイヤルを回して「LINE」/「MIC」を選び、コントロールダイヤルを押します。
   ※ 設定が完了します。

#### 出力レベルの設定

- CH MENUボタンを押して、設定するチャンネルを選択します。
  - 押すたびに設定するチャンネルが切り替わります。
- **2** コントロールダイヤルを回して「LEVEL」を選び、コントロールダイヤルを押します。
- 3 コントロールダイヤルを回して使用する出力レベルを選び、コントロールダイヤルを押します。
  - コントロールダイヤルを回すたびに1dBずつ大きく/小さくなります。
  - -20~+20dBまで設定できます。

» 設定が完了します。

HPF (High-Pass Filter)の設定

- CH MENUボタンを押して、設定するチャンネルを選択します。
  - 押すたびに設定するチャンネルが切り替わります。
- 2 コントロールダイヤルを回して「HPF」を選び、コントロールダイヤルを押します。

3 コントロールダイヤルを回して「ON」/「OFF」を選び、コントロールダイヤルを押します。
 >> 設定が完了します。

### トランスミッターIDの設定

- **1** CH MENUボタンを押して、設定するチャンネルを選択します。
  - 押すたびに設定するチャンネルが切り替わります。
- **2** コントロールダイヤルを回して「TX SETTING」を選び、コントロールダイヤルを押します。
- 3 コントロールダイヤルを回して「TX ID」を選び、コントロールダイヤルを押します。
- 4 コントロールダイヤルを回して文字を選び、コントロールダイヤルを押します。
  - 0~9、A~Zから2桁の文字を設定できます。
     >> 設定が完了します。

### 入力ゲインの設定

- CH MENUボタンを押して、設定するチャンネルを選択します。
  - 押すたびに設定するチャンネルが切り替わります。
- **2** コントロールダイヤルを回して「TX SETTING」を選び、コントロールダイヤルを押します。
- 3 コントロールダイヤルを回して「GAIN」を選び、コントロールダイヤルを押します。
- 4 コントロールダイヤルを回して使用する入力ゲインを選び、コントロールダイヤルを押します。
  - コントロールダイヤルを回すたびに2dBずつ大きく/小さくなります。
  - -10~+20dBまで設定できます。

>> 設定が完了します。

## 入力コネクターの設定(ATW-T1401のみ)

入力コネクターの接続先を「MIC」(マイクロホン)か「INST」(ギターケーブルなど)に設定します。

- 1 CH MENUボタンを押して、設定するチャンネルを選択します。
  - 押すたびに設定するチャンネルが切り替わります。
- 2 コントロールダイヤルを回して「TX SETTING」を選び、コントロールダイヤルを押します。
- 3 コントロールダイヤルを回して「INPUT」を選び、コントロールダイヤルを押します。
- コントロールダイヤルを回して「MIC」/「INST」を選び、コントロールダイヤルを押します。
   >> 設定が完了します。

ミュートモードの設定(ATW-T1401/ATW-T1402)

- 1 CH MENUボタンを押して、設定するチャンネルを選択します。
  - 押すたびに設定するチャンネルが切り替わります。
- 2 コントロールダイヤルを回して「TX SETTING」を選び、コントロールダイヤルを押します。
- 3 コントロールダイヤルを回して「MUTE MODE」を選び、コントロールダイヤルを押します。
- **4** コントロールダイヤルを回して「Enable」/「Disable」を選び、コントロールダイヤルを押します。

項目	内容
Enable	ミュートスイッチをスライドさせると、ミュート/ミュート解除 が切り替わります。
Disable	ミュートスイッチをスライドさせても、ミュートになりません。

>> 設定が完了します。

ミュートモードの設定(ATW-T1406/ATW-T1407)

- CH MENUボタンを押して、設定するチャンネルを選択します。
  - 押すたびに設定するチャンネルが切り替わります。
- 2 コントロールダイヤルを回して「TX SETTING」を選び、コントロールダイヤルを押します。
- 3 コントロールダイヤルを回して「MUTE MODE」を選び、コントロールダイヤルを押します。

- 4 コントロールダイヤルを回して「Toggle」/「Touch to talk」/「Touch to mute」/「Disable」から選び、コントロールダイヤルを押します。
- **5** 「Toggle」を選んだ場合、コントロールダイヤルを回して「Default mute」/「Default unmute」を選び、 コントロールダイヤルを押します。

項目	内容
Default mute	電源ON時にミュートで起動します。トークスイッチを短押しする たびにミュート/ミュート解除が切り替わります。
Default unmute	電源ON時にミュート解除で起動します。トークスイッチを短押し するたびにミュート/ミュート解除が切り替わります。
Touch to talk	トークスイッチを押している間、ミュート解除します。
Touch to mute	トークスイッチを押している間、ミュートになります。
Disable	トークスイッチを押しても、ミュートになりません。

» 設定が完了します。

インジケーターの設定(ATW-T1401/ATW-T1402)

表示されるインジケーターが点灯するかを変更できます。

1 CH MENUボタンを押して、設定するチャンネルを選択します。

- 押すたびに設定するチャンネルが切り替わります。
- 2 コントロールダイヤルを回して「TX SETTING」を選び、コントロールダイヤルを押します。
- 3 コントロールダイヤルを回して「LED」を選び、コントロールダイヤルを押します。
- 4 コントロールダイヤルを回して「On」/「Off」を選び、コントロールダイヤルを押します。

項目	内容
On	点灯します。
Off	常に消灯します。

>> 設定が完了します。

### インジケーターの設定(ATW-T1406/ATW-T1407)

表示されるインジケーターの色設定を変更できます。

• ATW-T1407ではLED付きグースネックマイクロホンを使用する際に設定します。

- LED無しグースネックマイクロホンを使用する際は「Standard」に設定してください。
- LED付きグースネックマイクロホンを使用する際は「Conference」に設定してください。

CH MENUボタンを押して、設定するチャンネルを選択します。

- 押すたびに設定するチャンネルが切り替わります。
- 2 コントロールダイヤルを回して「TX SETTING」を選び、コントロールダイヤルを押します。
- 3 コントロールダイヤルを回して「LED」を選び、コントロールダイヤルを押します。

**4** コントロールダイヤルを回して「Standard」/「Conference」を選び、コントロールダイヤルを押します。

項目	内容
Standard	ミュート解除時:緑色 ミュート時:赤色
Conference	ミュート解除時:赤色 ミュート時:消灯

>> 設定が完了します。

 LED無しグースネックマイクロホンを「Conference」で使用するとノイズが発生する原因になります。
 LED付きグースネックマイクロホンを「Standard」で使用するとグースネックマイクロホンのLEDは常時 点灯します。

電池の設定(ATW-T1401/ATW-T1402のみ)

使用する電池の種類を設定します。

1 CH MENUボタンを押して、設定するチャンネルを選択します。

- 押すたびに設定するチャンネルが切り替わります。
- 2 コントロールダイヤルを回して「TX SETTING」を選び、コントロールダイヤルを押します。
- 3 コントロールダイヤルを回して「BATTERY」を選び、コントロールダイヤルを押します。
- 4 コントロールダイヤルを回して「Alkaline」/「NiMH」/「Lithium」を選び、コントロールダイヤルを押し ます。

項目	内容
Alkaline	アルカリ乾電池を使用する場合に選択します。
NiMH	ニッケル水素電池を使用する場合に選択します。
Lithium	リチウム乾電池を使用する場合に選択します。

>> 設定が完了します。

使用する電池と同じ設定を行わないと、電池残量表示が正しく表示されません。必ず使用する電池に合わせた設定を行ってください。

### タイムアウトの設定

通信するレシーバーの検索中にタイムアウトになる時間を設定します。タイムアウトになると、トランスミッターの電源がOFFになります。

- 1 CH MENUボタンを押して、設定するチャンネルを選択します。
  - 押すたびに設定するチャンネルが切り替わります。
- 2 コントロールダイヤルを回して「TX SETTING」を選び、コントロールダイヤルを押します。
- 3 コントロールダイヤルを回して「TIMEOUT」を選び、コントロールダイヤルを押します。
- 4 コントロールダイヤルを回して「Off」/「1min」/「10min」/「60min」から選び、コントロールダイヤ ルを押します。

>> 設定が完了します。

### バージョンの確認

トランスミッターのファームウェアバージョンを表示します。

- 1 CH MENUボタンを押して、設定するチャンネルを選択します。
  - 押すたびに設定するチャンネルが切り替わります。
- 2 コントロールダイヤルを回して「TX SETTING」を選び、コントロールダイヤルを押します。

**3** コントロールダイヤルを回して「VERSION」を選びます。

» ファームウェアのバージョンが表示されます。

#### 初期化

トランスミッターの設定を工場出荷時の状態にします。

- レシーバーのトランスミッター情報は削除されません。
  - CH MENUボタンを押して、設定するチャンネルを選択します。
    - 押すたびに設定するチャンネルが切り替わります。
  - **2** コントロールダイヤルを回して「TX SETTING」を選び、コントロールダイヤルを押します。
  - 3 コントロールダイヤルを回して「RESET」を選び、コントロールダイヤルを押します。
  - **4** 「Yes」を選び、コントロールダイヤルを押します。
  - **5** 「Yes」を選び、コントロールダイヤルを押します。

#### »設定を初期化します。

### イコライザーの設定

専用アプリケーション(ワイヤレスマネージャー)を使用することで、より詳細な設定をすることが可能です。

- CH MENUボタンを押して、設定するチャンネルを選択します。
  - 押すたびに設定するチャンネルが切り替わります。
- **2** コントロールダイヤルを回して「UTILITIES」を選び、コントロールダイヤルを押します。
- 3 コントロールダイヤルを回して「EQ」を選び、コントロールダイヤルを押します。
- **4** コントロールダイヤルを回して「EQ:」を選び、コントロールダイヤルを押します。
- 5 コントロールダイヤルを回して「On」を選び、コントロールダイヤルを押します。
   ※ イコライザーの設定が選択可能になります。
- **6** コントロールダイヤルを回して「Recall preset:」を選び、コントロールダイヤルを押します。

- 7 コントロールダイヤルを回して「NEUTRAL」/「WARM」/「BRIGHT」/「USER1」/「USER2」/「USER3」/「USER4」から選び、コントロールダイヤルを押します。
  - 「USER1」/「USER2」/「USER3」/「USER4」は専用アプリケーション(ワイヤレスマネージャー) で設定します。

>> 設定が完了します。

コンプレッサーの設定

専用アプリケーション(ワイヤレスマネージャー)を使用することで、より詳細な設定をすることが可能です。

- **1** CH MENUボタンを押して、設定するチャンネルを選択します。
  - 押すたびに設定するチャンネルが切り替わります。
- 2 コントロールダイヤルを回して「UTILITIES」を選び、コントロールダイヤルを押します。
- 3 コントロールダイヤルを回して「COMPRESSOR」を選び、コントロールダイヤルを押します。
- **4** コントロールダイヤルを回して「COMP:」を選び、コントロールダイヤルを押します。
- 5 コントロールダイヤルを回して「On」を選び、コントロールダイヤルを押します。
  - » コンプレッサーの設定が選択可能になります。
- **6** コントロールダイヤルを回して「Recall preset:」を選び、コントロールダイヤルを押します。
- 7 コントロールダイヤルを回して「VOCAL」/「SPEECH」/「USER1」/「USER2」/「USER3」/「USER4」から選び、コントロールダイヤルを押します。
  - 「USER1」/「USER2」/「USER3」/「USER4」は専用アプリケーション(ワイヤレスマネージャー) で設定します。

» 設定が完了します。

### トランスミッターの登録削除

ペアリングしたトランスミッターの登録を削除することができます。

- マルチペアリングの設定が「On」の場合に表示されます。
- トランスミッターのレシーバー情報は削除されません。
#### ATW-R1440の設定

- **CH MENUボタンを押して、設定するチャンネルを選択します。** 
  - 押すたびに設定するチャンネルが切り替わります。
- 2 コントロールダイヤルを回して「UTILITIES」を選び、コントロールダイヤルを押します。
- 3 コントロールダイヤルを回して「MULTI TX ID」を選び、コントロールダイヤルを押します。
- ↓ コントロールダイヤルを回して登録削除するIDを選び、コントロールダイヤルを押します。
  - 押すたびにチェックボックスのチェックが切り替わります。
- 5 コントロールダイヤルを回して「Delete」を選び、コントロールダイヤルを押します。

» チェックを付けたチャンネルの登録が削除されます。

#### 通信機器の確認

- 1 CH MENUボタンを押して、設定するチャンネルを選択します。
  - 押すたびに設定するチャンネルが切り替わります。
- 2 コントロールダイヤルを回して「IDENTIFY」を選び、コントロールダイヤルを押します。

»通信が確立しているトランスミッターのインジケーターが一定時間、赤色/緑色/黄色で交互に点灯します。

# ワイヤレスマネージャーについて

ワイヤレスマネージャーは、オーディオテクニカ製品のワイヤレス運用をサポートする専用アプリケーションです。 レシーバーとWindowsパソコン/Macを接続することにより、ステータスモニタリングや制御が可能になります。 またデバイス設定をオフラインで設定でき、機器とオンライン接続することで設定をインポートすることも可能です。

- 詳細はワイヤレスマネージャーの取扱説明書をお読みください。
- ワイヤレスマネージャーを使用する際は、先に「レシーバー設定」(p.51)の「NETWORK」の設定を行ってください。



スイッチングハブ
パソコン

### ワイヤレスマネージャーでしかできないこと

以下の項目はワイヤレスマネージャーでしか設定・実行できません。詳細はワイヤレスマネージャーの取扱説明書をお 読みください。

- ミックス出力の詳細設定
- EQ(イコライザー)の詳細設定
- コンプレッサーの詳細設定
- ウォークテスト
- 2.4GHz RF スキャン
- ファームウェアアップデート

### ATW-RU14

インジケーター	状態
緑色点滅	通信が確立していません。
早い緑色点滅	ペアリング中です。
緑色点灯	通信が確立しています。

## ATW-T1401/ATW-T1402

インジケーター	状態
赤色/緑色で交互点灯	ペアリング中です。
緑色点灯	通信が確立しています。
赤色点灯	通信が確立していて、ミュートの状態です。
赤色点滅	通信するレシーバーを探しています。
黄色点滅	電池残量がありません。30分以内に電源がOFFになります。 <sup>[1]</sup>
赤色/緑色/黄色で交互点灯	通信が確立していて、レシーバーで通信機器の確認を実行中です。

[1] 時間は目安です。使用条件により異なります。

# ATW-T1406/ATW-T1407

## ステータスインジケーター

インジケーター	状態
赤色/緑色で交互点灯	ペアリング中です。
緑色点灯	通信が確立しています。
赤色点灯	通信が確立していて、ミュートの状態です。
赤色点滅	通信するレシーバーを探しています。
黄色点滅	電池残量がありません。30分以内に電源がOFFになります。 <sup>[1]</sup>
赤色/緑色/黄色で交互点灯	通信が確立していて、レシーバーで通信機器の確認を実行中です。

[1] 時間は目安です。使用条件により異なります。

#### ステータスインジケーター(Conferenceモード時)

インジケーター	状態
赤色/緑色で交互点灯	ペアリング中です。
赤色点灯	通信が確立しています。
消灯	通信が確立していて、ミュートの状態です。
赤色点滅	通信するレシーバーを探しています。
黄色点滅	電池残量がありません。30分以内に電源がOFFになります。 <sup>[1]</sup>
赤色/緑色/黄色で交互点灯	通信が確立していて、レシーバーで通信機器の確認を実行中です。

[1] 時間は目安です。使用条件により異なります。

### ステータスインジケーター(充電時)

インジケーター	状態
赤色点灯	充電中です。
緑色点灯	満充電の状態です。
遅い赤色点滅	充電異常が発生しています。

トークインジケーター

インジケーター	状態
緑色点灯	通信が確立しています。
赤色点灯	通信が確立していて、ミュートの状態です。

#### トークインジケーター(Conferenceモード時)

インジケーター	状態
赤色点灯	通信が確立しています。
消灯	通信が確立していて、ミュートの状態です。

# ファームウェアアップデートのしかた

#### ATW-R1440

RXリンクしている場合、親機をアップデートすることで子機のレシーバーもアップデートされます。

1 レシーバーのNETWORKポートとWindowsパソコン/MacをLANケーブルで接続します。



**2** ワイヤレスマネージャーを起動し、「ツール」から「ファームウェアアップデート」を選択します。

#### ATW-T1401/ATW-T1402/ATW-T1406/ATW-T1407

トランスミッターの電源はOFFにしてください。

1 トランスミッターのUSBポートとWindowsパソコン/MacをUSBケーブルで接続します。



2 ワイヤレスマネージャーを起動し、「ツール」から「ファームウェアアップデート」を選択します。

# トラブルシューティング

#### (?) レシーバーの電源が入らない

- ACアダプターが正しく接続されているか確認してください。
- レシーバーの電源がONになっているか確認してください。

#### (?) トランスミッターの電源が入らない

- 電池が入っているか確認してください。
- 充電式電池の残量を確認してください。

#### (?) 音が出ない/音が小さい

- レシーバー、トランスミッターの電源がONになっているか確認してください。
- トランスミッターがミュートになっていないか確認してください。
- トランスミッターとマイクロホンが正しく接続されているか確認してください。
- トランスミッターのゲインが小さ過ぎないか確認してください。
- レシーバーのボリュームが小さ過ぎないか確認してください。

#### (?) 音がひずむ

- トランスミッターのゲインが大き過ぎないか確認してください。
- レシーバーのボリュームが大き過ぎないか確認してください。
- レシーバーのLINE/MICレベルが正しく設定されているか確認してください。
- 外部接続の機器のボリュームが大き過ぎないか確認してください。

#### (?) ノイズが出る/音が途切れる

- トランスミッターとマイクロホンが正しく接続されているか確認してください。
- 接続している外部マイクロホンがトランスミッターのアンテナに近づき過ぎていないか確認してください。

#### (?) トランスミッターが充電されない

- 充電端子が汚れていないか確認し、清掃してください。
- 充電式電池が入っているか確認してください。
- トランスミッターが充電器に正しい向きで差し込まれているか確認してください。

#### トラブルシューティング

- (?) レシーバー、トランスミッターの動作がおかしい
  - 動作がおかしい場合は、再起動してください。

#### (?) レシーバーとパソコンが正常に接続できない場合

- パソコンのOSをアップデートして、お使いのパソコンを最新の状態にしてください。
- パソコンとレシーバーのネットワーク設定を「Auto」から「Static」に変更してください。「IPの設定」 (p.58)を参照してください。
- レシーバーとパソコンの接続にルーターもしくはスイッチングハブを経由してください。
- レシーバーとパソコンを直接接続する場合は、USBイーサネット変換アダプターを経由してください。

# 外形寸法図

## ATW-R1440





アンテナ接続時



(単位:mm)

# ATW-T1401







Ö

29



(単位:mm)

### ATW-T1402



(単位:mm)

# ATW-T1406













(単位:mm)

# ATW-T1407











(単位:mm)

# テクニカルデータ

### システム仕様

通信周波数带	2,402~2,480MHz
ダイナミックレンジ	120dB (A-weighted), typical
全高調波歪率	< 0.05%, typical
動作範囲 <sup>[1]</sup>	60m
システム周波数特性 <sup>[2]</sup>	20~20,000Hz
遅延	Standard: 2.8ms HD mode: 6.7ms
オーディオサンプリング周波数	Standard: 24bit/48kHz HD mode: 24bit/48kHz
暗号化方式	AES128
最大同時使用 <sup>[3]</sup>	Standard: 10チャンネル HD mode: 20チャンネル

[1] 干渉信号のない開けた環境。

[2] 取り付けるマイクロホンにより異なります。

[3] 地域や環境によって異なります。

### ATW-R1440

#### ATW-RC14

レシーバーユニット外部接続ポー ト	RJ45
NETWORKポート	RJ45: Fast Ethernet
LINK IN/OUTポート	RJ12
出力レベル	LINE最大: +22dBu(+20dBV) LINEユニティ: -20dBu(-22dBV) MIC最大: -12dBu(-10dBV) MICユニティ: -50dBu(-52dBV)
消費電力	3.7W
電源	DC12V 0.5A(ACアダプター)
動作温度範囲	0°C~+40°C
外形寸法	209.8mm×165.6mm×42.5mm (W×D×H)
質量	740g
付属品	ACアダプター、ACアダプター用刃先、 ラックマウントアダプター(短)、ラックマウントアダプター(長)、 固定用ねじ×5、連結ケーブル(30cm)、ゴム脚×4

### ATW-RU14

変調方式	GFSK
RF出力	10mW EIRP
受信感度	-90dBm, typical
アンテナ	λ /2 ダイポールアンテナ、ダイバーシティ
外部接続ポート	RJ45
電源	DC12V (RC14)
動作温度範囲	0°C~+40°C
外形寸法	86.0mm×70.2mm×18.7mm (W×D×H)
質量	77g
付属品	ユニットホルダー、ホルダーカバー、木ねじ×2、アンテナ×4

### ATW-T1401

変調方式	GFSK
RF出力	10mW EIRP
受信感度	-90dBm, typical
アンテナ	ダイバーシティ
入力端子 ① ② ② ③ ③ ③ ③ ⑤ ⑤ ⑤ ⑤ ⑤ ⑤ ⑤ ⑤ ⑤ ⑤ ⑤ ⑤ ⑤	4ピンロッキングコネクター ピン1:GND ピン2:INST INPUT ピン3:MIC INPUT ピン4:DC BIAS +10V
電池	DC3V(単3形電池2本)
動作温度範囲	5°C~+40°C
電池寿命 <sup>[1]</sup>	単3形アルカリ乾電池:約15時間 単3形ニッケル水素電池:約14時間30分 単3形リチウム乾電池:約29時間
外形寸法	63.7mm×22.7mm×107.4mm (W×D×H)
質量(電池除く)	80g

[1] 使用条件により異なります。

#### テクニカルデータ

### ATW-T1402

変調方式	GFSK
RF出力	10mW EIRP
受信感度	-90dBm, typical
アンテナ	ダイバーシティ
マイクロホン型式	ダイナミック型
マイクロホン指向特性	ハイパーカーディオイド
電池	DC3V(単3形電池2本)
動作温度範囲	5°C~+40°C
<b>電池寿命</b> <sup>[1]</sup>	単3形アルカリ乾電池:約18時間 単3形ニッケル水素電池:約16時間30分 単3形リチウム乾電池:約35時間
外形寸法	265.0mm× \$\$3.7mm
質量(電池除く)	300g
付属品	マイクホルダー AT8456a、変換ねじアダプター(3/8 - 5/8)

[1] 使用条件により異なります。

### ATW-T1406

変調方式	GFSK
RF出力	10mW EIRP
受信感度	-90dBm, typical
アンテナ	ダイバーシティ
最大入力音圧レベル	139dB SPL
マイクロホン型式	コンデンサー型
マイクロホン指向特性	カーディオイド
動作温度範囲	5°C~+40°C
内蔵電池	3.7Vリチウムイオン電池(5.5Wh、1460mAh)
<b>電池寿命</b> <sup>[1]</sup>	約12時間
<b>充電時間</b> <sup>[1]</sup>	約3時間10分
USB充電ポート	USB Type-C (USB 2.0)
外形寸法	90.5mm×129.4mm×31.9mm (W×D×H)
質量(電池含む)	510g
付属品	USB電源アダプター、USB電源アダプター用刃先、USBケーブル(1.5m)

[1] 使用条件により異なります。

#### テクニカルデータ

### ATW-T1407

変調方式	GFSK
RF出力	10mW EIRP
受信感度	-90dBm, typical
アンテナ	ダイバーシティ
マイクロホン	グースネックマイクロホン対応
ファントム電源	DC24V
動作温度範囲	5°C~+40°C
内蔵電池	3.7Vリチウムイオン電池(5.5Wh、1460mAh)
電池寿命 <sup>[1]</sup>	LED無しグースネックマイクロホン使用時:約12時間 LED付きグースネックマイクロホン使用時:約8時間
<b>充電時間</b> <sup>[1]</sup>	約3時間10分
USB充電ポート	USB Type-C (USB 2.0)
外形寸法	90.5mm×129.4mm×47.6mm (W×D×H)
質量(電池含む)	490g
付属品	USB電源アダプター、USB電源アダプター用刃先、USBケーブル(1.5m)

[1] 使用条件により異なります。

# 商標について

- Microsoft<sup>®</sup>、Windows<sup>®</sup>は、米国Microsoft Corporationの米国及びその他の国における登録商標です。
- WindowsはMicrosoft Windows operating systemの略称として表記しています。
- Apple、macOSは、米国およびその他の国で登録されたApple Inc.の商標です。
- USB Type-C<sup>™</sup> はUSB Implementers Forumの商標です。
- その他、本書に記載されている会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。

# 系統図(ATW-R1440)



#### 株式会社オーディオテクニカ

〒194-8666 東京都町田市西成瀬2-46-1 www.audio-technica.co.jp

#### Audio-Technica Corporation

2-46-1 Nishi-naruse, Machida, Tokyo 194-8666, Japan www.audio-technica.com ©2024 Audio-Technica Corporation Global Support Contact: www.at-globalsupport.com